

No.626 (改題586号)
2023年
7月26日(水)

新社会兵庫



週刊 新社会

発行所: 新社会党

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三成工業ビル3F
TEL. 03(6380)9960 FAX. 03(6380)9963

新社会党兵庫県本部 神戸市中央区中山手通5丁目2-3 ☎078(361)3613 FAX078(361)3614 毎月第2、第4水曜日発行 購読料月400円(1部200円)郵便振替:01120-7-16805

子どもたちの地球を汚すな
原発いらぬ話し会とパレード



約130人が参加して木原壮林さんや吉本ひろ子さんの脱原発運動のお話を聞いた=7月9日、神戸市中央区

12の賛同市民団体が主催
先の通常国会で岸田政権が「GX(グリーン・トランスフォーメーション)電源法」を成立させ、再び原発依存社会への回帰をめざす原子力政策の転換を図るなか、子どもたちに負(放射能)の遺産を残さないために、どうすれば原発に依存しない社会を目指せるか、多くの市民とともに原発について学び、考えよう」と7月9日、神戸市内で「子どもたちの地球を汚すな!原発いらぬ話し会」と名付けられた集いが開かれた。主催したのは、脱原発運動に取り組む県内各地の市民団体や市民デモHYOGOなど12の賛同団体。

約130人が参加した集いの冒頭、主催者を代表して「脱原発はりまアクション」の菅野逸雄さんがあいさつ。「この集いの開催にあたり、もっと幅広い人の参加をめざそう、もっと運動の改善や工夫で脱原発の流れを広げよう、と議論してきた」と集いの趣旨を訴えた。その後は、「原発は、なぜなくさなければならぬか」と題した、「老朽原発うごかすな!実行委員会」の木原壮林さんのお話。木原さんは、運動を広げるには「話」。木原さんは、原発のしくみや原発事故の深刻さを詳しく説明して、「原発は現在の科学技術では制御できないもの。なくさなければならぬ」と力説。さらに老朽原発のいっそうの危険性も強調し、自らがかわる「老朽原発うごかすな!実行委員会」の10年以上にわたる若狭と関西での活動についても詳しく報告した。若狭現地のアメリカバドモ、全国集会の開催、リレーデモなど。そして、今年の12月3日には大阪市内で「1万人集会」を開くことも報告して参加を呼びかけた。さらに、「脱原発明石・たこの会」の吉本ひろ子さんによる「多様な表現でホットな脱原発運動を創り出そう」と題した「お話」があった。吉本さんは、運動を広げるには「話」。木原さんは、運動を広げるには「話」。

忍耐と対話力が大事だと話せるかと参加者に問いかけ、「二歩踏み出せば、できることは広がる」として、自らが無所属市民派として履屋川市議に挑戦し、議員活動を行ってきた豊富な経験を紹介。まずは学ぶことからと握起し、「命を最優先にする政治」の大切さと、「大人は『民主主義の主権者』として政治に責任がある」とことを強調して話を締めくくった。



集会後は楽しく明るくパレード=7月9日

「原爆と人間」写真展
8月3日(木)〜8日(火)11時〜19時
(ただし8日は18時まで)
JR神戸駅南地下街アユオギやりの1
(主催)神戸市原爆被害者の会
入場無料

今年も「生命と安全を守る集会」

ノーモア尼崎事故

批判的検証とともに、国民の権利としての交通権機にJRが尼崎事故前の基本的権利という視点から地域の鉄道の復権を問題提起した。また、連帯アピールとして、リニア新幹線建設反対の取り組みや全日建関生支部、JHU(JAL被解雇者労働組合)からの闘争報告と支援要請も行われた。

営利優先のJRの経営体質を背景に、2005年4月25日に発生し、107人が亡くなったJR福知山線脱線事故。2度とこんな事故があってはならないと、2006年から毎年ずっと(コロナ禍による中断はあったが)国労の有志組合員らを中心にした実行委員会の主催で「ノーモア尼崎事故 命と安全を守る集会」が開かれてきたが、今年も7月15日に尼崎市内で開かれ、約70人が参加した。

集会は、東幹夫さん(国労)の司会で進められ、まず埼玉大学名誉教授の安藤陽さんが「地域における鉄道の復権―国鉄『分割・民営化』と新自由主義―」と題した記念講演を行い、鉄道をめぐる新自由主義的政策の



林田大庄屋
旧三木家住宅

(姫路市林田町)

ひょうご (141)
描き歩き
姫路から山崎への国道29号の途中、林田の信号で折れ入ると静かな佇まいのエリアに出逢う。林田は姫路を起点に美作を経て山陰の因幡鳥取まで至る因幡街道の起点の地。ここに来ると異空間に迷い込んだような感覚にとらわれるから不思議だ。

林田川を渡ったすぐの敬業館の南に、江戸時代初期の建造とされる林田藩の大庄屋、三木家の旧住居がある。当初茅葺であった屋根の上部と裾に後に瓦屋根を付けた主屋を中心に、入口に長屋門、奥に土蔵(米蔵、内蔵、新蔵)が建ち並び、周囲は土塀に囲まれ、外に園地が広がる。長屋門の西端には藩主を迎え入れるた

め御成門があり、中門が続く。傍に池泉回遊式庭園。何度も保存修理工事を経てきているが、民家遺構としてかなり古いもので、大庄屋の建築として県下で推定できる最古の遺構であり、全国的にも極めて珍しい民家史上の重要なものといわれている。中心部の主屋に入ると土間の南側は居室部で、奥にクド、女部屋がある。境に広敷を設け、居室部の南に表台所、式台付きの女閣、表座敷の3室が配され、縁を巡って離座敷、湯殿、雪隠などがある。赤松氏を頼り播磨に来た三木氏は英賀城落城後、この地に来て帰農し、大庄屋を努めたという。(嶋倉)



記念講演は「地域における鉄道の復権」と題して安藤陽さん(埼玉大学名誉教授)が行った=7月15日、尼崎市・小田南生涯学習プラザ

水脈

このごろ注目した裁判2つ。1つは、神戸市西区にある金属製品の表面処理などをを行う会社でユニオン組合員への懲戒解雇を争う裁判。先日、原告と被告社長への証人尋問を傍聴してきた。主尋問・反対尋問の後、裁判所が、珍しくかなりの時間をとって社長を尋問。裁判はこの日で弁論が終了し、判決日も決まったのだが、裁判長の尋問を聞いてみると「こんなので俺に判決書かすなよ」という雰囲気だった▼さてもう1つ、7月11日の最高裁小法廷。経産省のトランスジェンダー女性職員に対するトイレ利用の制限は、「他の職員への配慮を過度に重視し、原告の不利益を不当に軽視するもの」として妥当性を欠き、違法と判断した▼閉会した国会で成立したLGBT理解増進法は、もともと性的少数者たちへの不当な差別を禁止し、彼らの生きづらさを解消するための立法だった。それが、守旧派の横やりでいつの間にか「すべての国民が安心して生活できるように留意」と真逆の文言(趣旨)が入って法律は成立し、関連団体などからの批判も強い▼その国会(立法)に比べると、最高裁(司法)の判決は人権や多様性を理解し、社会の流れを反映しているのではないかと、思ったのは私だけか。

私の主張

「私」の主張として、学校教育の目的は、「socially・O社会」を実現するための人材育成に在るべきである。この構想に教育も巻き込まれようという「GIGAスクール」の正体だ。

したがって、学校教育の目的は、「socially・O社会」を実現するための人材育成に在るべきである。この構想に教育も巻き込まれようという「GIGAスクール」の正体だ。

したがって、学校教育の目的は、「socially・O社会」を実現するための人材育成に在るべきである。この構想に教育も巻き込まれようという「GIGAスクール」の正体だ。

したがって、学校教育の目的は、「socially・O社会」を実現するための人材育成に在るべきである。この構想に教育も巻き込まれようという「GIGAスクール」の正体だ。

すむ「GIGAスクール」
いま学校では、一人一台のタブレットを児童生徒に貸与して、「GIGAスクール」と呼ばれる教育が進められている。ランドセルに入れて持ち帰ったタブレットで宿題をする姿が普通になった。

しかし、これを単なる教育機器導入の条件整備として捉えるのは間違いだ。それには財界や経済界が提唱し、政府が目指している「Society 5.0社会」が大きく関連している。Society 5.0とは、これまでの情報社会のIT化をさらに進め、IoT(すべてのものがインターネットとつながる)、AI、ビッグデータ、ロボット工学などの最新テクノロジーをフルに活用した社会である。日本経済の行き詰まりへの対策として浮上したもので、いま強引に進められている国民の生活を丸ごとデータ化しようという

来年2024年度から小学校は新しい教科書になる。そのタイミングでデジタル教科書の本格導入が始まる。デジタル教科書とは、紙媒体の教科書の内容をそのままパソコンやタブレットで見ることができ、文字の大きさや色などを変更することができる教科書だ。

年から一気にデジタル教科書が普及するとは思われない。どうやら英語のみの「本格実施」になりそうである。

渡辺修二(兵庫教育労働運動研究会)

渡辺修二(兵庫教育労働運動研究会)

王子公園への応募を取り下げて！ 関西学院に5750筆の署名を提出

『王子公園・市民ミーティング』実行委



5月から集めた5750筆の署名を第1次分として関西学院に手渡した＝7月4日、関西学院大学

王子公園の再整備計画をめぐる、市民不在とも言うべき神戸市の計画遂行に対してその撤回と市民参画を求めるとともに、大学誘致に際して応募した関西学院には応募の取り下げを求める署名運動を展開してきた『王子公園・市民ミーティング』実行委員会は7月4日、関西学院を訪ね、この間に集めた5750筆を持参して関学側に提出した。

と、一人ひとりが署名板を持って話し込みもしながら精力的に取り組み、「王子公園を守りたい」という子どもから大人までの思いを集めてきた。この署名行動は今後もお盆前まで続ける。



大学の正門前で学生たちにも王子公園再整備計画の問題点をアピール＝7月4日、西宮市

渡し、この日の懇談を最終の対応に終始し、同実行委員会は2回目の「申し入れ書」を手渡した。(小林、上野)

学校教育の今を考える(1) デジタル教科書の功罪

IT機器を駆使することで将来の社会を担うことができる国民をつくるのが目指される。これまで公教育の大きな目的とされた「人格の形成」がはるか後ろくに遠く印象だ。いま大きな流れとして進められている「GIGAスクール」だが、子どもたちに端末機器を使わせる教育的効果が実証されているわけでは決していない。今後導入されるデジタル教科書についてもその功罪をしっかりと捉えておかなければならないと思う。

うものがあるが、デジタルの英語教科書もまさにそれに似た機能があり、子どもたちは自分で何度も英語の発音を聞くことができる。従来の紙の教科書にはない優れた特徴をもっているからこそ使われているのだ。

紙からデジタルへの変更が一概に成績向上につながるとはいえないようである。情報量の多さが弊害になるという別の実験結果もある。文章内にハイパーリンクがあると注意散漫になり深い読みができないことが分かった。また、動画も含めて情報量が多すぎると、受け取る側が受け身になってしまい、能動的に考えることを妨げることになる。動画を見て分かった気になってしまふ現象は、動画が能動的思考を奪うからだと考えられる。動画を通じた体験が大事

渡辺修二(兵庫教育労働運動研究会)

改憲の動きをウォッチング

秋の臨時国会「緊急事態条項」の改憲案が焦点に
岸田首相は、来年9月までの任期中に改憲を実現すると強調している。国民投票法は、国会で議決した日から起算して60日以内の国民投票を行うと定めている。

大軍拡反対、改憲阻止の国民世論を盛り上げていくしかない。
「死の商人」への道
自民・公明が武器輸出で合意 政府は秋にも結論を出す

並みがそろっていない。公明内の衆・参でも足並みが乱れている。任期延長に際し、衆院は前向きだが、参院は「基本は緊急集会で対応する」と慎重だ。臨時国会で解散があれば、改憲スケジュールにも影響している。

大軍拡反対、改憲阻止の国民世論を盛り上げていくしかない。
「死の商人」への道
自民・公明が武器輸出で合意 政府は秋にも結論を出す

第19回ピースフェスタ明石
～平和・いのち・子ども～
(アスパシア明石・7、8階)
■ウォールギャラリー展示
●7月28日(金)～8月6日(日)9時～21時
(31日は休館日、最終日は17時まで)
(明石市立労働福祉会館)
■ギャラリー展示～田島征彦の世界/原画展
●8月2日(水)～6日(日)10時～16時
●同会館1階
※他のテーマも同時展示
■戦争体験の集い
●8月5日(土)10時～11時30分
●同会館2階・多目的ホール
■たじまゆきこ講演会「絵本で何ができるか」
●8月6日(日)13時～
●同会館2階・多目的ホール
●参加費 前売1000円 当日1200円

公園と防災・減災を考える

かがく教育研究所所長の菅本 格さんが講演

王子公園を守るための「連続市民セミナー」



「阪神・淡路大震災から学んだこと」と題した菅本 格さんのお話に学んだ＝7月15日、動物園ホール

神戸市が進める、市民不在の再開発」ともいふべき王子公園の再整備計画から「市民の財産である王子公園を守ろう」と、計画への市民の参画などを求めて活動に取り組む『王子公園・市民ミーティング』実行委員会が運動の理論面での強化の一環として企画した「王子公園を守るための連続市民セミナー」の第2回が7月15日、動物園ホールで開かれた。

「住民自治と公園」をテーマに中川智子・前宝塚市長が講師を務めた第1回に引き続きもので、第2回は防災・減災がテーマ。かがく教育研究所所長の菅本 格(はしもと・いたる)さん(元神戸市中学校理科教師、元神戸親和女子大学教授)が、「阪神・淡路大震災の経験から学んだこととして、「ふだんからの豊かな人間関係こそが防災対策」など5つの提言を紹介して、必ずやってくる南海トラフ巨大地震に備える防災・減災のポイントを提起。「王子公園を市民のための減災・防災拠点に。誰でも気軽に集い、歩く空間こそが大事で、動物園と公園と広場を次世代に残そう」と訴えて講演を締めくくった。

セミナーの最後に金丸正樹・同実行委員会事務局長が今後の行動を提起。運動の地味なエリアと年代を広げる課題を認識しながら、①関学に応募の取り上げを求める署名は1万筆を目標に(7月18日現在7200筆を突破)、②8月27日に、大学誘致のために王子公園の今ある諸施設がなくなってしまう多くの人々を集めた大集会を開く、などの行動計画を呼びかけた。

私たちの介護は大丈夫?

安心ネットが2回目の交流会

安心と笑顔の社会保障ネットワーク(略称・安心ネット)は7月2日、灘区民センターで「PARRT2 親の老後、私の老後は大丈夫?」という交流会を開催。今年3月の神戸市介護保険課出前トークに続き介護保険制度の問題点を把握するための意見交換を行った。菊地憲之・安心ネット

代表は「介護保険制度のさらなる改悪案は防衛費や少子化対策の財源確保のために年末まで先送りされたが、この交流会で明らかになった問題点を神戸市に申し入れを行いたい」とあいさつ。つづいて小林のみ子事務局長がこれまでの取り組みの経過を報告し、前回の出前トークで出された意見

や質問に対する神戸市の回答書の説明をした。その後、介護労働のAグループと介護保険制度利用のBグループに分かれて交流を深めた。Aグループでは、「グループホームでは人手不足で公休も出勤長時間労働でクタクタ。休みが欲しい」と若い介護職員がユニオンで話している「昨



介護労働と介護保険制度の利用の2つのテーマのグループに分かれて交流した＝7月2日、神戸市

年2月から岸田政権が促す賃上げ3%(9千円)の取り組みは、良くても6千円の賃上げでまったく不十分。物価高に対応できないなど劣悪な処遇に不満が出された。Bグループでは、「一人暮らしの70歳の父は発達障害で生活支援が必要。夫とともに通いで見ていくが、同じ団地で孤独死があり、父の介護に不安がある」「特養で介護費用だけでも18万円かかる。施設の部屋代負担が資産基準の引下げで増えて、

朝鮮戦争「休戦協定」締結70年 戦争のない朝鮮半島を

韓統連兵庫がセミナー開催

1950年6月25日に始まった朝鮮戦争(「ユニゴ」116・25)は、1953年7月27日の休戦協定をもって戦況は終わった。しかし、休戦は終戦ではない。今年はその休戦協定から70年、あらためて「休戦協定を平和協定へ」と朝鮮半島に真実の平和を求める声が高まっている。そんな中で「統一マダ



韓統連大阪本部の金昌五さんが講演した＝7月9日、神戸市中央区

ン神戸)を中心で担った韓統連(在日韓国民主統一連)兵庫が7月9日、平和協定で戦争のない朝鮮半島を求めてセミナーを開催した。講師は韓統連大阪本部の金昌五(キム・チャンオ)さん。以下は、講演要旨。「韓

路線を推進し、朝鮮半島の緊張を高めている。前任の文在寅は朴槿恵に対する『キャンドル革命』で政権に就いたが、対米関係で平和・統一の路線を徹底しきれずに支持を失い、尹政権に道を開いた。その尹政権も、いま韓国では退陣を求める行動が毎週のように続いており、2024総選挙を迎える。今春の全羅北道の国会議員補選では進歩党が議席を得た。未完のキャンドル革命を完遂し、親米勢力の弱体化、自主・統一勢力の躍進で朝鮮半島に新しい平和と繁栄の時代を切り開くチャンスが訪れる」。(門永)

空襲戦跡ウォークのボランティアガイド養成講座を企画 神戸空襲を記録する会

戦争体験者がだんだん少なくなり、その体験を聞く機会も難しくなっているなかであって、「神戸平和マップ」などをもとに、戦跡を訪ねるウォークの取り組みなどが増えてきている。戦跡ウォークを早くから取り組んできた神戸空襲を記録する会では、戦争や戦

7:30シンポジウム
空襲・戦災を次世代に引き継いでいくために——神戸空襲を記録する会のこれまでとこれから
●7月30日(日) 13時30分～16時
●兵庫津ミュージアム(地下鉄海岸線中央市場前)
●講演とシンポジウム(田辺眞人さんら)

戦争体験者がだんだん少なくなり、その体験を聞く機会も難しくなっているなかであって、「神戸平和マップ」などをもとに、戦跡を訪ねるウォークの取り組みなどが増えてきている。戦跡ウォークを早くから取り組んできた神戸空襲を記録する会では、戦争や戦

た。その尹政権も、いま韓国では退陣を求める行動が毎週のように続いており、2024総選挙を迎える。今春の全羅北道の国会議員補選では進歩党が議席を得た。未完のキャンドル革命を完遂し、親米勢力の弱体化、自主・統一勢力の躍進で朝鮮半島に新しい平和と繁栄の時代を切り開くチャンスが訪れる」。(門永)

地域ユニオン 414 あちこちあれこれ
昨年8月末、滋賀に住む在日ブラジル人の女性から「残業代を払ってくれない」との相談が武庫川ユニオン滋賀地域支部に寄せられた。彼女は1年前に正社員として入社し、午前中は料理を配達、午後はレストランで調理に従事してきた。その後、午後からも料理の配達を行うようになった。定時(18時)を過ぎても働く日が増え、また人手不足から休日出勤も命じられるようになった。しかし、いくら訴えても残業代(割増賃金)を払ってくれないとの相談だった。ユニオンはすぐに団体交渉を申し入れたが、会社から連絡がまったく来なかったため、ユニオンから電話を入れた。電話を申し立てる前に、証拠を切ったきりとなった。そのため、今年1月、監督に労基法第37条違反(割増賃金未払)の申告を行った。会社はタイムカードで労働時間管理していたため、監督の調

在日外国人労働者の相談から

監督に労基法第37条違反(割増賃金未払)の申告を行った。会社はタイムカードで労働時間管理していたため、監督の調

た。その尹政権も、いま韓国では退陣を求める行動が毎週のように続いており、2024総選挙を迎える。今春の全羅北道の国会議員補選では進歩党が議席を得た。未完のキャンドル革命を完遂し、親米勢力の弱体化、自主・統一勢力の躍進で朝鮮半島に新しい平和と繁栄の時代を切り開くチャンスが訪れる」。(門永)

た。その尹政権も、いま韓国では退陣を求める行動が毎週のように続いており、2024総選挙を迎える。今春の全羅北道の国会議員補選では進歩党が議席を得た。未完のキャンドル革命を完遂し、親米勢力の弱体化、自主・統一勢力の躍進で朝鮮半島に新しい平和と繁栄の時代を切り開くチャンスが訪れる」。(門永)

おんなの目

I (アイ)
 女性会議は60年安保闘争後の1962年に結成され、(結成時は日本婦人会議)、女性の解放、平和と民主主義、憲法を守るために女性の力を結集しようといわれた団体です。

兵庫県本部のスタートも同時期だったようで、兵庫県本部では故今村延子さんが長く専従者で色々と指導をいただき、1977年に須磨でも支部づくりに取り組みました。他支部の所属会員、国労家族会、労組役員など20人余りに呼びかけ、支部を結成。当時、私は育児休業中で、3歳と5カ月余りの子どもを連れて参加したことを覚えています。毎月例会を会員宅持ち回りで開催し、『女のしんぶん』を読み合せ、職場や地域の問題で交流活動には子ども連れも多く、大きい子が小さい子をみてくれるなど賑やかでした。当時、合成洗剤による赤潮や奇形魚の環境問題から「せつけん運動」があり、せつけんの販売は財政つくりとして大事な運動で、配達のために運転免許を取得しました。「アースディンすま」と称した講演会では、原発、海洋汚染、ゴミ問題をテーマに数回取り組みました。平和の問題では、夏休みに親子参加型で戦争に関係した絵本や写真集などを展示し講演

会とセットするなど、今から思えば支部でも多くの取り組みをよくやったものだと思います。各支部が様々な運動に取り組み中、県本部は「よい保育所をつくる会」「在宅介護ネットワーク」など社会保障制度の改善を求める運動を進め、「働

女性会議の60年余の活動

における女性の権利と加書の責任、慰安婦問題は無かったことにしようとする動きについて学習したのが始まりです。「平和のつどい」は、コロナ禍からはオンライン配信ができるまでになりました。また、年4回発行の「ウーマンズカレント」(機関誌)はテーマを決め、会員だけでなく様々な方に寄稿していただいています。編集会議での議論は本心に勉強になります。

このような活動を50年近く続けていますが、男女平等社会はまだ遠くです。ジェンダーギャップ順位では、今年は146か国中なんと125位です。賃金格差、経済・政治分野での政策決定ポストに女性が少なすぎるためです。諸外国はほとんど改善策を実現させているのに、日本政府の対応には怒り心頭です。根底には「家父長制」が基本としてあり、経済政策や社会保障削減策として女性に家庭責任を押しつけている現状で、言葉だけの「女性活躍」では順位も上がるはずがありません。

く女性の交流会集会」実行委員会にも参加しました。毎年12月8日前後に開催している「平和のつどい」は、「歴史の歪曲は許さない」と題して『日本軍慰安婦問題』を当時朝日新聞記者の松井やよりさんを講師に招き、戦争

(加納花枝)



『堤未果のショック・ドクトリン』 堤未果著／幻冬舎新書／940円＋税

著者は序章で、ショック・ドクトリンについて次のように定義している。「テロや大災害など、恐怖で国民が思考停止している最中に、為政者や巨大資本がどさくさ紛れに過激な政策を推し進める悪魔の手法」だと。具体的に、日本でも大地震やコロナ禍という惨事の裏で知らぬ間に個人情報や資産が奪われようとしている。パンデミックで空前の利益を製薬会社は得ている、また、マイナンバーカードの普及の先にある政府の悪意などを考える、たんに目の前の移住作業の儲けなどは桁違いのねらいも想像できる。まさに、この手法と背景を学び、私たちの生命・財産を守らねばと主張している。

本棚

という言葉は、2007年にカナダ人のナオミ・クラインが書いた著作名で、この本の中心で、チリの軍事クーデター、天安門事件、2001年のアメリカ同時多発テロなど大きな惨事と並行して起こった出来事を一つの視点から徹底的に検証し「強欲資本主義」とも呼ばれる経済システムが世界を席巻した原因を明らかにしたとされている。

政府のやりたい放題から身を守る方法 (副題)

伝したが、多くの国民が「不安を感じる」と応えた。しかし、2020年以降、コロナ禍でマイナンバーを基盤としてデジタル化が一気に加速させるショック・ドクトリンが進められたと述べている。そのねらいは、あらゆる個人情報や国が把握することが目的であり、2022年度末に全国民にマイナンバーカードを持たせるため、マイナンバーとセットで保険証を2024年に廃止するとした。しかし、この余りにも強引かつ現場を無視した

告白、あるいは完璧な弁護

「予測不能サスペンス・スリラー」というチラシのうたい文句に誘われて映画館へ行った。スペイン映画のリメイク版ということだが、何の予備知識も持たずに見たのがよかったようだ。ネタバレは順位も上がるはずがありません。

くのに苦労したことをまです「告白」しておく。



「IT企業の社長であるユ・ミンホ(ソ・ジン)の不倫相手であるキム・セヒ(ナナ)がホテルで殺され、一緒にいたミンホが第一容疑者として逮捕された。ホテルの部屋は中から鍵がかけてあり完全な密室だった。無実を主張するミンホは、敏腕の弁護士ヤン・シネ(キム・ユンジン)を雇い、事件の真相を探ろうとする。ミンホは、この殺人事件には過去に起こした交通事故が関係している

のではと弁護士のシネに告白し、この2つの事件と事故がからみあいが真相が追及されていく

陰鬱な風景が冒頭に映し出され、この物語の行く末を暗示しているかのようだ。この山荘で、シネが「完璧な弁護」をするため、ミンホとのやり取りが繰り返られることになる。アカデミー賞を取った枝監督の「怪物」は、1つの出来事を立場を変えて描く手法がとられていたが、本作も同様な方法が使われている。2人の会話から殺人事件や交通事故の真相が描かれていくが、それが真実なのか、はたまた創られたものなのか、観客は翻弄されていく。はじめから終わりまで、頭をフル回転して画面を追うこと

が要求され、最後まで飽きさせない作品になっている。ネタバレは厳禁だが、謎解きのヒントは弁護士シネの言葉に隠されている。「証拠に必要なのは知性と創造性」、「生き延びたいのなら真実を話して下さい」、「救いには苦しみがつきものです」、「あなたには私より賢くない」、「助けるに値するのは嘘をつかない人」……映画を見終わってから、これらの言葉の意味するところを観客は堪能することになる。

シネマランド

予測不能のサスペンス・スリラー

韓国では有名なだろうが、知らない人ばかりだ

監督ユン・ジョンク/2022年/韓国/105分